

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

保育園番号	
園名	こどもヶ丘保育園大森北園
クラス	0歳児クラス／ひよこ組

### 1. 活動テーマ

#### 【テーマ】

絵本『つみき』

#### 【テーマの設定理由】

- ・絵本に興味のある子どもが寄ってきて見始め、音の場面や虫が出てくる場面で笑ったり、指差ししたりする子どもがいたため。

### 2. 活動スケジュール

- 1回目 10月6日(月)：絵本読み聞かせ『つみき』
- 2回目 10月30日(木)：玩具で遊ぶ

### 3. 探究活動の実践①

#### 【活動の内容】 10月6日(月)

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育士との関わり

- ・保育者が絵本を読み始めると寄ってきて見始める。  
興味がなく、他の遊びをしている子どももいる。
- ・てんとう虫が飛んでいくところで「むいむい（がいるよ）。」と指差しして知らせる子どももいる。
- ・『ガッシャーン』の場面で大笑いし、言葉の響きを楽しんでる姿が見られた。



#### 4, 保護者への共有

- ・連絡帳や送迎時の伝達を通して子どもたちの姿を共有。

#### 5, 振り返り

##### 【振り返りによって得た保育者の気づき】

- ・『ガッシャーン』の音の前に間をあけると"次だ"という期待感が子どもたちの表情に見られ、絵本の読み方によって子どもの興味の向き方が変わってきていた。子どもの様子を見ながら絵本の中で楽しめるように読み聞かせを行いたいと思った。

#### 3, 探究活動の実践②

##### 【活動の内容】 10月23日(木)

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育士との関わり

- ・ガムテープ等の芯を使って遊んでいると、子どもたちが重ね始めた。
- ・『つみき』の絵本のように保育者が「ひとつ」「ふたつ」と数えたり、一番上にてんとう虫の人形を乗せて保育者が「あっ！てんとう虫！」と言うと「むいむい。」と応えたり、指差ししたりしていた。
- ・積んだものを倒す時に保育者が「がっしゃーん！」と言うと、笑っていた。
- ・高月齢児が特に興味を持ち、積んだり倒したりして楽しむことを繰り返すうちにてんとう虫以外の玩具を上に乗せるようになった。
- ・ガムテープ芯以外にも、缶やソフト積み木等を用意するとそれを積み上げるようになった。



#### 4, 保護者への共有

- ・連絡帳や送迎時の伝達を通して子どもたちの姿を共有。

#### 5, 振り返り

##### 【振り返りによって得た保育者の気づき】

- ・ガムテープ芯で作った玩具以外にも玩具を用意し目に付く所に置いたことで、自分で試して積み重ねてみようとする姿へと繋がった。子どもの様子を見ながら、他にも積めるものを用意したことで遊びを発展させることが出来たのではないかと思った。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

保育園番号	
園名	こどもヶ丘保育園大森北園
クラス	0歳児クラス／ひよこ組

### 1. 活動テーマ

#### 【テーマ】

絵本『ごろんご ゆきだるま』

#### 【テーマの設定理由】

・保育者が絵本を読んでいると集まってきて見るようになり、指差しや喃語で表現するようになった。子どもたちが興味を示していて、季節感のある絵本だったので、この絵本を選んだ。

### 2. 活動スケジュール

- 1回目 12月 3日(水)～26日(金)：絵本読み聞かせ『ごろんご ゆきだるま』
- 2回目 12月16日(火)：制作
- 3回目 1月 5日(月)：歌を歌う
- 4回目 1月22日(木)：雪あそびごっこ（新聞紙）

### 3. 探究活動の実践①

#### 【活動の内容】 12月3日(水)～26日(金)

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育士との関わり
- ・保育者が絵本を読み始めると登場する雪だるまや犬を見て指差しや喃語などで興味や関心を表現しようとしたり、「ゆきだるま。」「わんわん。」など、保育者の言葉を真似たりして楽しむ姿が見られた。



#### 4, 保護者への共有

- ・送迎時に口頭で伝えたり、連絡帳に記入したりして情報を共有。
- ・保育室の出入口に読み聞かせの様子を載せたドキュメンテーションを掲示。

#### 5, 振り返り

##### 【振り返りによって得た保育者の気づき】

- ・初めて読む絵本だったが、保育者がゆっくりと読み聞かせを始めると子どもたちが集まり関心を向けていた。指差しする子どもたちに優しく言葉かけをしたり、動作を見せたりするとより興味や関心を示していた。今後も様々な絵本に触れる機会を作っていきたい。

#### 3, 探究活動の実践②

##### 【活動の内容】 12月16日(火)

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育士との関わり
- ・ごろんご雪だるまの絵本を読み聞かせた後、綿のかたまりを見せると慎重に様子を窺ったり、不思議そうに触ったり、観察したりする。
- ・両面テープを貼った雪だるま型の画用紙に保育者が小さく丸めた綿を「べったん。」と言いながら貼り付けるとそれを真似したり、「ふわふわしているね。」  
「ゆきだるま。」「ゆき。」など保育者と言葉のやり取りを楽しんだりする。
- ・絵本の世界観を表現した制作物を飾る。(保育室内)



#### 4, 保護者への共有

- ・ 保育室の出入口に制作の様子を載せたドキュメンテーションを掲示。
- ・ 保育室内に絵本の世界観を表現した壁面制作を展示。

#### 5, 振り返り

【振り返りによって得た保育者の気づき】

- ・ 初めて綿を見て慎重に様子を窺う児もいたが、保育者や他児が触れている様子を見せると興味を持ち、楽しむことが出来ていたので良かった。絵本の世界観を表現した壁面飾りを行なうと、読み聞かせの際に指差しをしたり、喃語で興味や関心を示したりしていた。

#### 3, 探究活動の実践③

【活動の内容】 1月5日（月）

- ・ 活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・ 活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育士との関わり
- ・ 『ごろんごゆきだるま』の雪だるまの壁面を作ったことで興味が広がり、絵本を読むと壁面を指差しして「いっしょ。」と言っている。  
「～ちゃんの雪だるまだね。」と保育者が言うと再び「いっしょ。」と答えたり、雪だるまの方を見たりしていた。
- ・ 『ゆきのこぼろず』の歌を日々歌っていると、歌詞の語尾を真似て「～た。」と保育者と一緒に歌ったり、身体を揺らして楽しむ姿が見られた。



#### 4, 保護者への共有

- ・送迎時に口頭で様子を伝えて、情報を共有。

#### 5, 振り返り

##### 【振り返りによって得た保育者の気づき】

- ・保育者がゆっくり歌う事で子どもたちも節をつけて語尾だけ一緒に歌っていたので、子どものペースに合わせて行っていくことが大切だと感じた。また、保育者の言葉によって反応の変化も見られたので、子どもが発しやすく分かりやすい言葉を選んでいきたい。

#### 3, 探究活動の実践④

##### 【活動の内容】 1月22日(木)

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育士との関わり

- ・全身で感触が楽しめるよう、事前に大量の新聞紙を千切って準備した。
- ・まずは子どもと一緒に新聞紙を破る。扱いやすい大きさにし、切り込みを入れたものを渡すと子ども自身で破っていた。低月齢児は保育者が新聞紙の片方を持ち、反対側を子どもが持って協力して破るなど楽しめるよう工夫した。
- ・「1・2の3！」で大量の新聞紙を飛ばす。「キャー！」と声を発したり、頭上を見上げたりしていた。保育者の掛け声に合わせて「さん。」と言ったり、繰り返し行なう中で自分でもやってみようとし、保育者の動きと声に合わせて腕を上げ、新聞紙を飛ばそうとする子の姿も見られた。
- ・寝転んで新聞紙を全身に掛けたり、そのまま新聞紙を飛ばしてみたりすると身体を起こして驚いた様子も見られた。



#### 4, 保護者への共有

- ・送迎時に口頭で様子を伝えて、情報を共有。
- ・コドモンのドキュメンテーションを保育室出入り口に掲示。

#### 5, 振り返り

##### 【振り返りによって得た保育者の気づき】

- ・大量の新聞紙を用意しておいたことで、ダイナミックに全身で楽しんでおり、保育者が一緒に楽しむ事で子どもも遊び込めていたので、素材選びや量等の物的環境以外にも人的環境による雰囲気作りも重要だと分かった。また、新聞紙を破る音や感触などに気づけるような言葉掛けをし、子どもと共有していけるようにしていきたいと思った。